

幌延町

水沢 悠

1.概要と歴史

1.1 地名の由来

幌延とは、アイヌ語の「ポロ」「ヌプ」が転化したもので、『大平原』を意味していて、幌延町は実際に広大な原野と山林を有している。総面積 574.52 平方 km のうち、畑が 82.74 平方 km で、山林は 362.05 平方 km、原野は 80.76 平方 km に及ぶ。

1.2 歴史

この町の始まりは明治 32 年に下サロベツに福井団体が 15 戸入地したことによる。本願寺、天塩、法華宗の各農場がまず設置された。明治 36 年、天塩村外 2 カ村戸長役場が設置された。明治 40 年に、愛知団体がトイカンベツ原野に入地して、戸口 339 戸、934 人となる。大正 8 年、2 級町村制を施行、幌延・沙流を併せて幌延村という名称になる。大正 14 年、幌延～問寒別間鉄道が開通される。昭和 10 年、幌延～天塩間鉄道が開通される。昭和 13 年、酪連幌延工場が操業を開始する。この工場が、現在の雪印乳業(株)幌延工場の前身である。昭和 23 年、幌延と問寒別に農業協同組合が設立する。昭和 35 年、町制が施行される。また、幌延町商工会が設立される。この時点で戸口は 1,502 戸、7,432 人に達する。昭和 39 年、雪印乳業(株)幌延工場が完成する。後で述べるが、幌延町の住民の大半がこの工場で働いている。昭和 43 年、町開基 70 年記念祝典が挙行され、町章を決定する。昭和 44 年、乳牛 5,000 頭達成記念まつりを挙行する。後で述べるが、幌延町にとって乳牛は非常にたいせつなものである。昭和 45 年、5 町が共同して尿処理施設を造る。昭和 63 年、農村環境改善センターが開館する。郷土資料館も併設。平成 2 年、金田心象書道美術館が開館する。平成 4 年、幌延農協と問寒別農協が合併、幌延町農業協同組合を設立する。平成 7 年、町営トナカイ観光牧場オープン。これは幌延町でもっとも有名である。平成 10 年、保健センター、介護支援センターが開設される。平成 11 年、トナカイ観光牧場のリニューアルオープン。平成 12 年、介護保険制度が開始される。下水道の供用を開始する。深地層研究所、道・幌延町・サイクル機構の三者協定が締結される。平成 13 年、幌延町情報公開条例及び個人情報保護条例が施行される。核燃料サイクル開発機構幌延深地層研究センターが開く。平成 14 年、住民基本台帳ネットワークシステムがスタートする。西天北 5 町衛生施設組合でゴミ収集処理がスタートする。平成 15 年、オトンルイ風力発電所が稼動する。幌延町地圏環境研究所が開設する。問寒別町民プールがオープンする。平成 16 年、「西天北四町任意合併協議会」の解散をうけて町長は『単独・自立』を表明する。「ほろのべ自律プラン策定住民会議」を設置する。

2.地図、地理、気候、位置



図 1：全体図

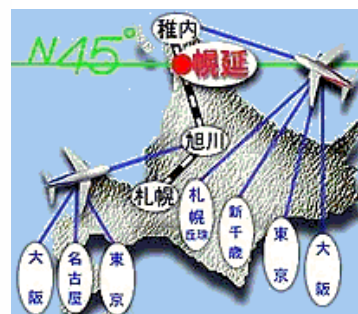


図 2：道内の位置

図 3 気候

気候													
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	平均
平均気温(°C)	-7.6	-7.7	-2.6	4.6	10.6	14.1	17.7	19.2	15.6	9.4	2.3	-4.5	5.9
最高気温(°C)	6	6.5	10	23.6	26.1	27.5	31.2	32.2	30.1	22.3	17.8	10.5	32.2
最低気温(°C)	-29	-28	-24	-15	-3.8	-0.6	6.5	5.6	0.4	-4.7	-13	-21	-29
降水量(mm)	28.5	18.3	34.1	55.3	71.2	58.9	161	118	118	148	118	37.9	101

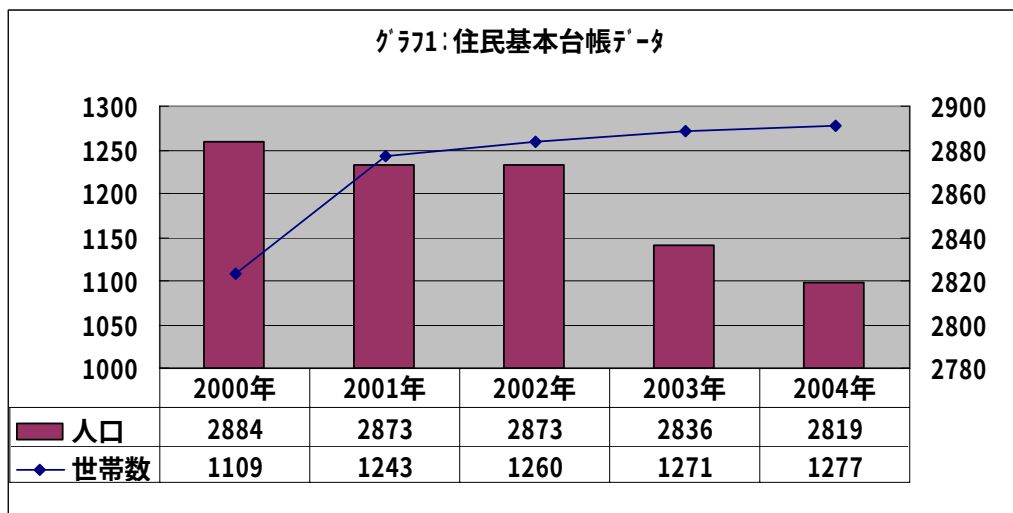
表 1：幌延町の気候(平成 10～16 年)<http://www.town.horonobe.hokkaido.jp/>

幌延町の気候は、夏は冷涼、冬は風の日が多く乾燥寒冷である。年間の平均気温は 5.9 度と低く、農業経営に大きな影響を受けてきた。最暖月の平均気温も 19.2 度であり、冬は、北西の季節風が強く、乾燥寒冷で低く、積雪期間は 11 月下旬から 4 月上旬まであり、1 m 前後の積雪に見舞われる。幌延では冷涼な気候を生かして、幻の花「青いケシ」を栽培している。その青い色は、澄んだ湖水のように美しく、見る人の心を惹きつける。

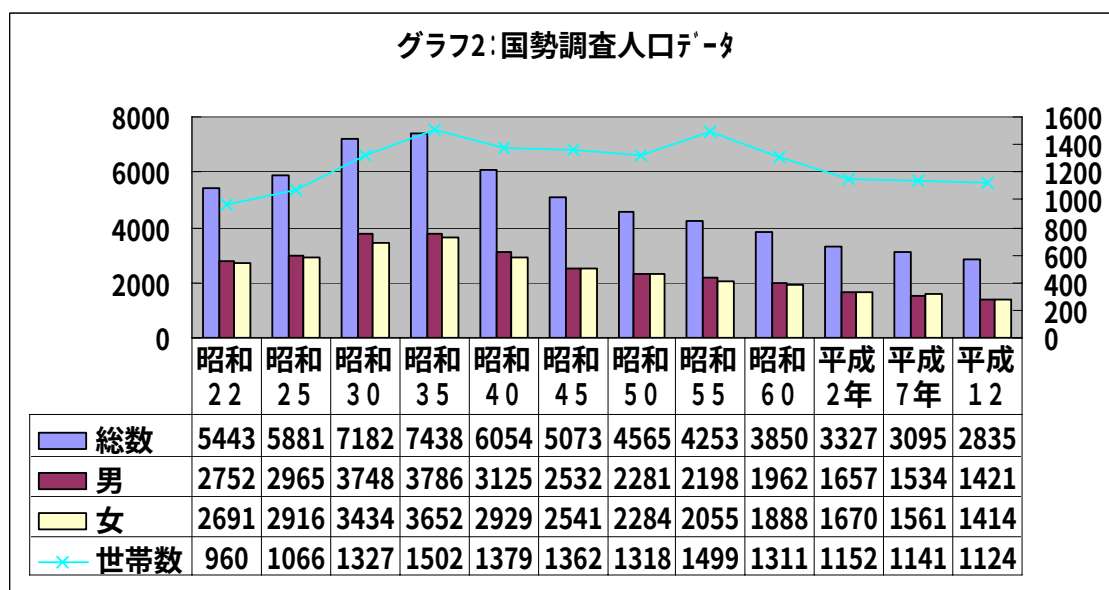
また、位置についてだが、幌延町の役場は北緯 45 度 00 分 56 秒、東経 141 度 51 分 12 秒である。町の東端は東経 142 度 40 分 36 秒。西端は東経 141 度 40 分 03 秒。南端は北緯 44 度 52 分 33 秒。北端は北緯 45 度 05 分 54 秒である。

3.人口・世帯数推移

3.1 人口・世帯数推移



<http://www.town.horonobe.hokkaido.jp/>

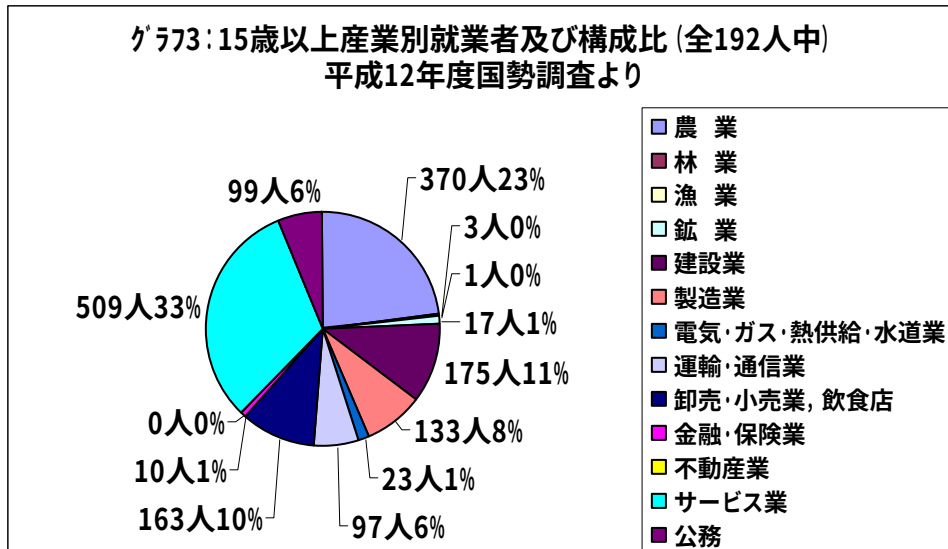


<http://www.town.horonobe.hokkaido.jp/>

幌延町の面積は 574.52 平方 km で、東京都 23 区とほぼ同じ広さの中に、2800 人程の町民が生活している。人口が多い時も少ない時も世帯数があまり変わらないことから、新しくこの町に移り住む家庭は少ないのだろう。昭和 35 年をピークに人口は減少し続けている。だが、世帯数は現在増加し始めている。また、40～50 才の人々が人口の比重の多くを占めている。

4.産業・産業別人口

4.1 産業・産業別人口



<http://www.town.horonobe.hokkaido.jp/>

やはり一番多いのはサービス業だった。あとは、農業、建設業、卸売・小売業・飲食店、製造業などが多く、公務、運輸・通信業などがその後に続く。第1次産業、第2次産業、第3次産業の比は23.4対20.3対56.3である。

23.4%を占める第1次産業の中では、農業が23.1%と大多数を占めていて、林業、漁業は非常に少ない。農業は、なんといっても乳用牛が盛んである。牛乳販売量は著しく伸びている。農家数は、専業農家、兼業農家ともに減少している。農家人口も減っているが、耕地面積は増加している。なお、肉用牛、馬は減少している。林業については、総数38,684haであり、天然林が人口林の5倍近くを占める。広葉樹と針葉樹は同程度生えている。また、持ち主は、町有林は少なく、北大研究林が最も多い。その次に、国有林、私有林と続く。

20.3%を占める第2次産業の内わけは、建設業10.9%、製造業8.3%がほとんどを占めている。この町では工業と言えば食品製造業、中でも雪印乳業KK幌延工場で働いている人が大半である。平成16年には工業事業就職者の全112人のうち105人が雪印乳業KK幌延工場に就職している。残り7名はワサビなどを作っている、ほろのベトラウトストリームに勤めている。

全体の56.3%を占める第3次産業の内わけは、サービス業の31.8%と卸売・小売業の10.2%がほとんどを占めている。商業については、商店数、従業者数、年間販売額、どれもここ10年以上減少し続けている。この町の商業と言えば、ほとんどが飲食料品小売業である。他にも、その他の小売業が商業のほとんどを占めている。他には、一般卸売業、織物・衣類等小売業、自動車・自転車小売業、家具、健具、付器小売業がある。

5.町の特徴

5.1 特産品

町の基幹産業は酪農で、人口の約 4 倍の 1 万 1 千頭程が飼育されている。特に乳用牛が盛んで、また重大なものである。昭和 44 年には、乳牛 5,000 頭達成記念まつりが挙行されているほどである。住民の就職先のほとんどは、雪印乳業 K K 幌延工場であることから、乳牛の大切さが分かる。

5.2 観光

幌延とは、『大平原』を意味しており、広大な原野と山林を有していると言ったが、特にサロベツ原野（23,000ha）は広大で、利尻礼文サロベツ国立公園の入口でもあり、その公園は山岳、海岸、湿原を含む我が国有数の自然公園である。そしてそこにはトナカイを観光資源にした「トナカイ観光牧場」がある。クリスマスのサンタとともにアイドルであるトナカイと遊ぶことができる。幻の花「青いケシ」が見られる"北方圏の花園"も牧場内にある。

サンタクロースと一緒にプレゼントをたくさん積んで星空を走りまわるメルヘンチックな動物、トナカイ…。トナカイは、フィンランドやノルウェーなどの北方圏やアメリカ大陸の北部、カナダなどの寒い地域に生息する動物である。北欧では家畜化されてもいる。住んでいる場所や環境などによって姿などに多少の違いはあるが、種類はみな同じである。

幌延町の「トナカイ観光牧場」にいるトナカイはフィンランドからやってきた幌延生まれの二世で、現在も幌延町で元気に育っている。春には赤ちゃんも誕生して、年ごとに仲間も増えている。日本でこれだけたくさんのトナカイを見ることができるのは幌延町の「トナカイ観光牧場」だけである。観光客数は、平成 15 年には 14 万 1200 人を記録したが、その後は減少の傾向にある。通年無休で終日開場であり、入場料は無料である。

問合せ先、01632-5-2070